



さざんか

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第50号(R6. 3. 1)

うす紅に 葉はいちはやく 萌え出でて 咲かんとすなり 山ざくら花

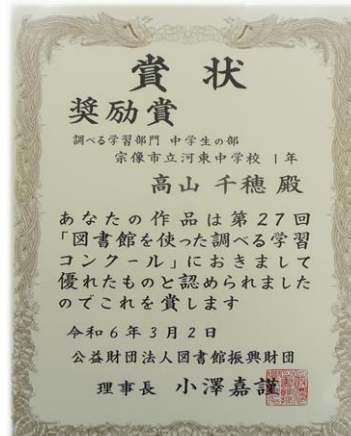
今日から弥生3月。上記の若山牧水の歌にあるように、今年は例年より早く桜が咲きそうです。9年生が本校を巣立つ卒業式も一週間後となりました。今年の冬は雨の日が続きましたが、これから本格的に春を迎え、陽光に満ちた日が多くなるでしょう。学年の締めくくりをしっかりと行うことを心がけていきましょう。

7年3組 高山千穂さんの作品が全国のコンクールへ出品!



「宗像市図書館を使った調べる学習コンクール」で7年3組の高山千穂さんの作品『ご存じ??ビジョントレーニング』が“奨励賞”を受賞しました。

さらに、この作品は全国のコンクールへ出品するとの知らせを受けました。



授業研修の風景

先週から今週にかけて行われた2本の授業研修を今回紹介します。今回の2本の授業研では、保護者のみなさんは経験しなかった「水墨画」やプラスチックから化学繊維を取り出す理科の実験という真新しい授業です。

岩佐先生(美術)

2月22日(木)9年2組で行われた岩佐先生による美術の公開授業。運筆を生かして描く水墨画の授業でした。9年生は墨で描く楽しさを堪能していました。



いつも新しい技法や作品作りに挑戦されている岩佐先生の授業。中学時代最後の単元として選ばれたのは「水墨画」。およそ4畳にわたる黒板いっぱいに作業手順が明示してあるので、生徒は全員作業に熱中しています。さらに、同じ題材の水鉢を描きながら一人一人の個性が浮き上がってくるのが如実にわかる授業でした。名作が並びました。

安田先生(理科)

2月28日(水)あおば・けやき学級で行われた安田先生による理科の公開授業。持続可能な社会のために科学技術をどう使えばいいのかを考え発表しました。

授業のハイライトは、1×4センチ四方に切り分けられたペットボトルの破片をピンセット2つでつまみ、ガスバーナーで加熱しながら化学繊維を取り出す実験です。プラスチックのリサイクルが実験を通して実体験できました。また、現代の科学技術について調べたことをスライドや紙にまとめてそれぞれ上手に発表が行われました。



日々の勉強や練習が将来役に立つことがあるのだろうか？ ～スティーブ・ジョブズが語った「点と点をつなげること」～

みなさんは、マッキントッシュのコンピュータ、iPhone、iPad などを持っていないだろうか。これらは Apple (アップル) 社の製品で、スティーブ・ジョブズという人がつくった会社だと知っている人も多いでしょう。また、you tube でアメリカのスタンフォード大学の卒業式で行った彼のスピーチを見たことがある人もいるでしょう。これは、歴史に残る名演説ですので、ぜひ視聴してみてください。

さて、この有名なスピーチで最も知られているのが、“Stay Hungry. Stay Foolish.” というフレーズです。「ハングリーであれ、バカでいろ」が直訳でしょうが、「物事に満足せず、常識にとられるな!」という若者へのメッセージです。ジョブズは、卒業していく大学生へ3つの話をしました。このフレーズが締めくくりに出てくる3つ目の話が有名ですが、今日紹介したいのは、最初の1つ目の話です。

みなさんは、日頃の授業や家庭学習での勉強、部活動やクラブチームでの練習の時、この学習や練習にどんな意味があるのだろうか、将来役に立つことがあるのだろうかと素朴な疑問を持ったことはないでしょうか。その疑問に答えたのが、ジョブズがスタンフォードで行ったスピーチの1番目の話です。

彼は、こう言っています。“The first story is about connecting the dots.” dot は「点」、connect は「つなげる」という意味なので、「点と点をつなげる」ことの大切さを話しているのです。つまり、今は点のようにバラバラに学習している国語や数学や美術、音楽といった教科が5年後、10年後あるいは20年たってつながっていくということです。今は関連性が感じられず何の脈絡もないことが、いつかどこかでつながっていく。今は直接役に立たないことが将来自分の仕事やアイデアに影響することを言っているのです。ただし、将来役に立つようになるためには条件があります。集中して習得すること、好きであること、意欲的に吸収することです。そうして自分のものにしたこと「点と点」は、いつかどこかでつながって自分を助けることになる。それが今皆さんの頑張っている勉強であり練習です。

彼はこの connecting the dots「点と点をつなげる」ことを自分の経験から話します。現在、パソコンやスマートフォンなどで表示される文字には、何十種類もの「フォント」があります。このように文字にさまざまなデザインを施すという発想も、実は、スティーブ・ジョブズによるものです。彼は、大学の授業で「カリグラフィー」の講義を熱心に聞きました。カリグラフィーというのは、西洋や中東などにおける、文字を美しく見せるための手法で、彼は伝統的で芸術的な文字の世界のとりこになりました。それから10年後、パソコンのマッキントッシュの製作をしているときに、カリグラフィーの講義の知識が大いに役に立ち、コンピュータにおけるフォントの設計につながったというのです。すなわち、彼のアイデアは現代のパソコンにフォントという機能を搭載する原点になっているのです。世界のテクノロジーを変えた発明はこうして生まれました。彼がスピーチで言っているように、マイクロソフト社のウィンドウズはマックのまねをしたにすぎないのです。もし、マックという点とカリグラフィーという点が結びつかなければ、現在のパソコンには、多様なフォントや字間調整機能も入っていなかったでしょう。

彼は、続けてこう言います。「もちろん、当時は先々のために点と点をつなげる意識などありませんでした。しかし、いまふり返ると、将来役立つことを大学でしっかり学んでいたわけです。将来をあらかじめ見すえて、点と点をつなぎあわせることなどできません。できるのは、後からつなぎ合わせることだけです。だから、我々は今やっていることがいずれ人生のどこかでつながって実を結ぶだろうと信じて努力するしかない。」

今、みなさんがやっている勉強や練習をもう一度見直してみませんか。幸い、河東中では質の高い10教科の授業とその他の領域の学習と部活動が行われています。今はどうつながるか分からない点かもしれませんが、ジョブズが言うように、将来必ずこの点はあるものとつながってみなさんの仕事や生活に役立つことでしょう。

